

滝山城跡(八王子市)

築城年代:大永元年(1521)、築城者:大石定重

これは滝山街道沿いから北東方向に滝山城跡のある「都立 滝山公園」の丘陵を見たところ



専用の駐車場も設けられている



ここから天野坂を登り、三の丸跡方面へ進もう



説明坂が立っている



都立 滝山公園

公園案内図



広域図

所在地 八王子市 高月町、丹木町
開園年月日 昭和61年6月1日
開園面積 262,665㎡

滝山城縄張図



作図：中田正光

◆公園概要

多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵にあり、都立滝山自然公園の一部です。

標高160mの公園の北には田園風景や多摩川の景観を望むことができます。

またここは、古くからのハイキングコースとして親しまれています。

付近一帯はサクラの名所としても知られ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ約5000本が春を彩ります。

◆滝山城跡

戦国時代中期に建てられた滝山城は、川沿いの絶壁を利用した典型的な山城で、今も本丸、二の丸、千畳敷、空堀などの貴重な遺構があります。

滝山城跡は、昭和26年に国の史跡として指定されました。

◆滝山の自然

園内の多くは自然豊かな雑木林で、季節ごとに様々な野草などが見られます。



オカトランゴ

シュンラン

ノハラアザミ

ヤマユリ

◆おねがい



設置年月：平成25年3月

お問い合わせ先 小宮公園サービスセンター TEL042-623-1615

現在地→三の丸跡→千畳敷跡→二の丸跡→中の丸跡→本丸跡→信濃屋敷跡→刑部屋敷跡→小宮曲輪跡→山の神曲輪跡と進んでみよう

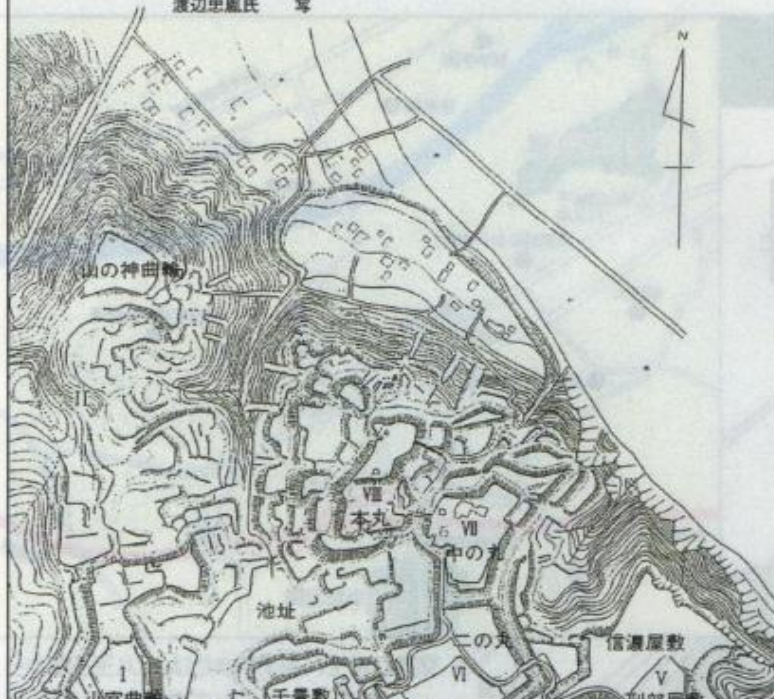


この案内板の横に置いてあるパンフレット

城址のある丘 都立 滝山公園

滝山城址見取図

本田 昇氏 作図
渡辺忠胤氏 写



八王子市の北端、多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵は、一部が都立滝山自然公園に指定されています。

都立滝山公園はこの自然公園の中ほどにあり、多摩川を望む標高約160mの丘に滝山城址があります。城址は遺構の保存状態がよく、周辺は豊かな雑木林に覆われています。

滝山公園は昔から桜の名所、あるいはハイキングコースの丘として親しまれてきましたが、四季を通じて雑木林がおりなす彩りにも、また心が和みます。





滝山公園の桜

滝山城址



本丸址

国指定の史跡、滝山城は戦国時代の中頃、大永元年（1521年）に武蔵国守護代の大石定重が、この城の北西約1.5kmの高月城から移り築城したものと伝えられます。

定重の子定久のとき北条氏康の支配を受け、その子氏照を養子に迎えて、滝山城は大石氏から北条氏照の居城となりました。氏照はさらに城を拡充し、その規模雄大さは当時関東屈指の山城と称されました。本丸、中の丸、二の丸、空堀などの巧みな遺構にそれがうかがえます。

上杉謙信、武田信玄などから猛攻を受けた滝山城ですが、なかでも信玄、勝頼父子による永禄12年（1569年）10月の城攻めは、熾烈を極めたといわれます。後に北条氏照は領地の備えをより固めるため、南西約9kmの地に八王子城を築き滝山城から移りました。移転の時期は定かではなく、天正の中頃（1580年代）と推測されます。

白亜の天守閣も、高い石垣もない、典型的な中世城郭の縄張りをもつ滝山城ですが、木立の深い城址にたたずむとき、かつて名城といわれた滝山城の面影がしのばれます。

滝山公園の植物

本来この地の植生の中心はシラカシでした。現在見られるコナラやスギなどの林は、後に薪炭材あるいは建築材などを得るため、人が手を加えた二次林といわれる林です。

主な樹木…コナラ、クヌギ、エゴノキ、ホオノキ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、シラカシ、スギ、ヒノキ、アカマツ

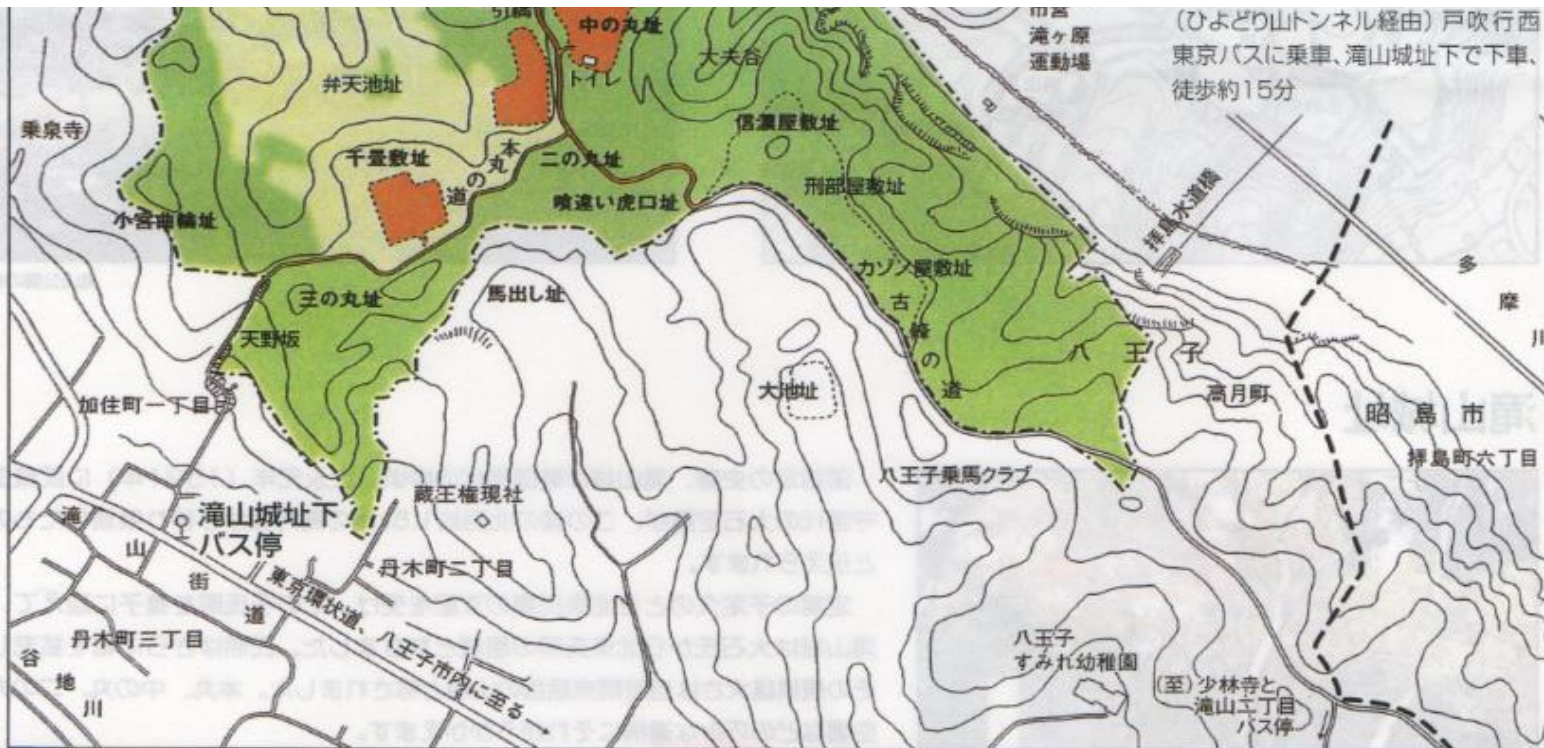
城下町

滝山城下には横山、八日(市)、八幡の三宿が、小規模ながらも城下町をかたちづくり市も開かれていました。

この三宿も城とともに八王子城下に移りましたが、落城後は現在の市内に移り市の中心として発展してきました。また元の場所にも地名が残りました。元八王子と呼ばれるゆえんです。

都立滝山公園 案内図と八王子周辺図





公園の概要

公園所在地 八王子市高月町、丹木町
 都市計画決定 昭和46年11月9日(当初)
 開園年月日 昭和61年6月1日
 開園面積 約259,206㎡(H15年6月)
 文部省史跡指定 昭和26年6月7日
 都立滝山自然公園指定 昭和25年11月7日

お園内でのお願い

1. ゴミや犬の糞は持ち帰りましょう。犬の放し飼いはやめて下さい。
2. 野草や昆虫等は採らないで、みんなで公園の自然を守りましょう。
3. 煙草の投げ捨てや焚き火などは山火事の原因です。やめて下さい。
4. 公園の管理上、禁止されていることがらについてはご協力下さい。

【問合せ先/指定管理者】都立小宮公園サービスセンター

〒192-0043 八王子市暁町2-41-6
 電話：042-623-1615 FAX: 042-628-4544
 ※8時30分～17時30分(年末年始を除く)

史跡関係：八王子市教育委員会 文化財課
 電話：042-620-7265

西武・多摩部の公園パートナーズ

西武造園株式会社/西武緑化管理株式会社
 NPO法人 NPO birth/一般社団法人防災教育普及協会

 地域を輝かせる 個性きらめく公園に
 緑南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地の4つの都立公園を管理しています



多摩部の都立公園

検索

さて、ここから登っていく/車両は通行禁止



ここは天野坂でこのルートが大手道のような



左右に折れながら登っていく/右上に小さな神社があった



こんな具合/このエリアも腰曲輪跡の一つのようだ



そこから右手を見たところ/このエリアの先が三の丸跡



さて、左下に堀跡が見えてくる/左手は小宮曲輪跡で、この堀跡はそれを取り巻いている



堀底に降りて見たところ/左手は小宮曲輪跡



これは振り返って見たところ/右手に廻り込んでいる



その先もこんな感じ/この堀跡は山の神曲輪跡へ行った帰りにもう一度見てみよう

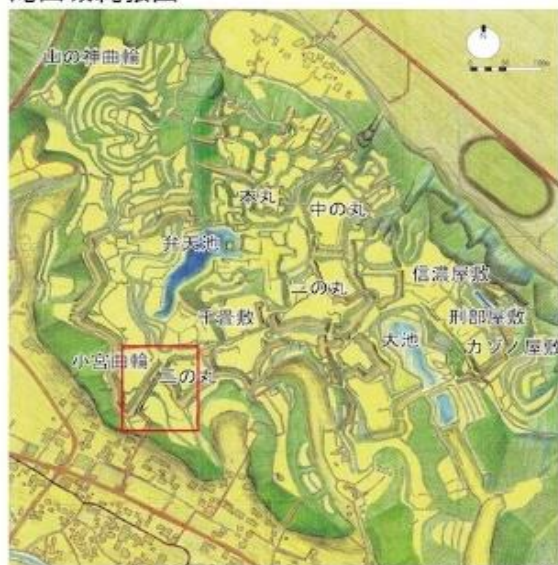


さて、左手に説明坂がある/左下は今の堀跡/右手前方のマウンドの上が三の丸跡



あまのざか
天野坂から
ますがたこぐち
枡形虎口へ

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

大手口と思われる天野坂からの堀底道は、城兵が効果的に攻撃ができるように工夫されている。小宮曲輪と三の丸の間には枡形虎口(出入口)が設けられていた。(図の中で復元)

攻めのぼる敵側にとっては大変な脅威にさらされる場所で、侵入するのが難しかったと思われる。





説明坂の辺りから先程の堀跡を見返したところ/右手が小宮曲輪跡/堀跡はここで終わっている



正面のマウンドの上が三の丸跡でその手前に堀跡がある



これがその三の丸跡を取り巻く堀跡/左手が三の丸跡/右手が先程の神社のあった腰曲輪跡のエリア



この先は三の丸跡を取り巻くように左手に折れている



折れた先はこんな具合/左手が三の丸跡/この先は三の丸跡へ行った時に、もう一度見てみよう



さて、前方は小宮曲輪跡の柵形虎口跡があるところ



説明坂がある/左手が枳形虎口跡



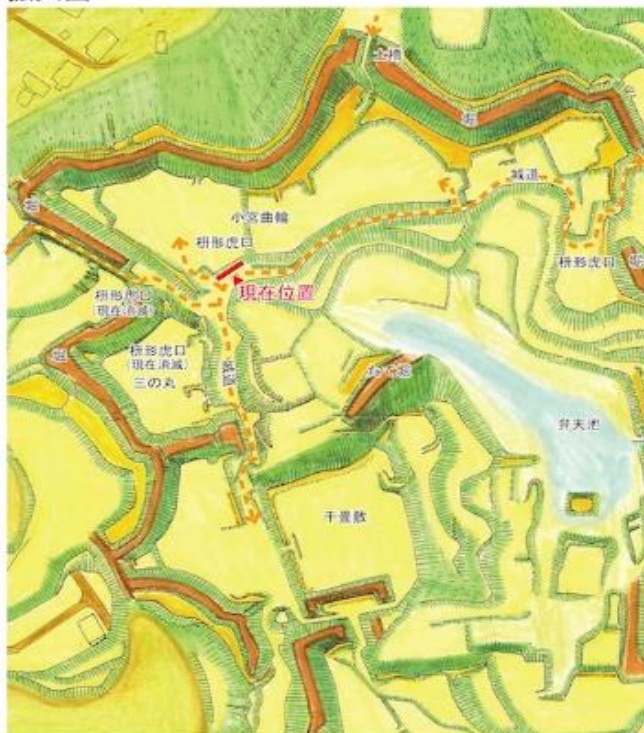
こみやぐるわ
小宮曲輪
 (家臣屋敷)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

「小宮曲輪」と称されてきているので氏照の家臣の中に西多摩地域出身の家臣(小宮氏)が活躍していたと思われる。

小宮曲輪の内部は土塁(土盛り)でいくつかの屋敷に区切られていたと考えられる。

小宮曲輪と三の丸の間には枡形虎口(出入口)があったが車道により消滅した。

(図の中で復元)





正面が柵形虎口跡



ここが小宮曲輪跡/進入禁止となっている



その先はこんな感じ



左下には最初に見た小宮曲輪跡を取り巻く堀跡があるようだ



右手を進んでいくと山の神曲輪跡へと続く/この先は後程行ってみよう



さて、大手道へ戻り、三の丸跡へと進もう



正面のマウンドの上は三の丸跡



説明坂がある/この先が「コの字型土橋(4回折り土橋)跡」



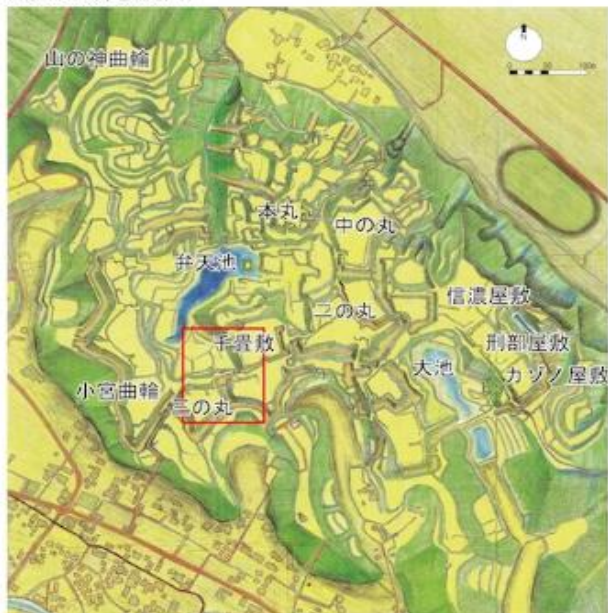
これは土橋を挟む堀跡/手前右手に延びている



この字型土橋

(強力な側面攻撃)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図

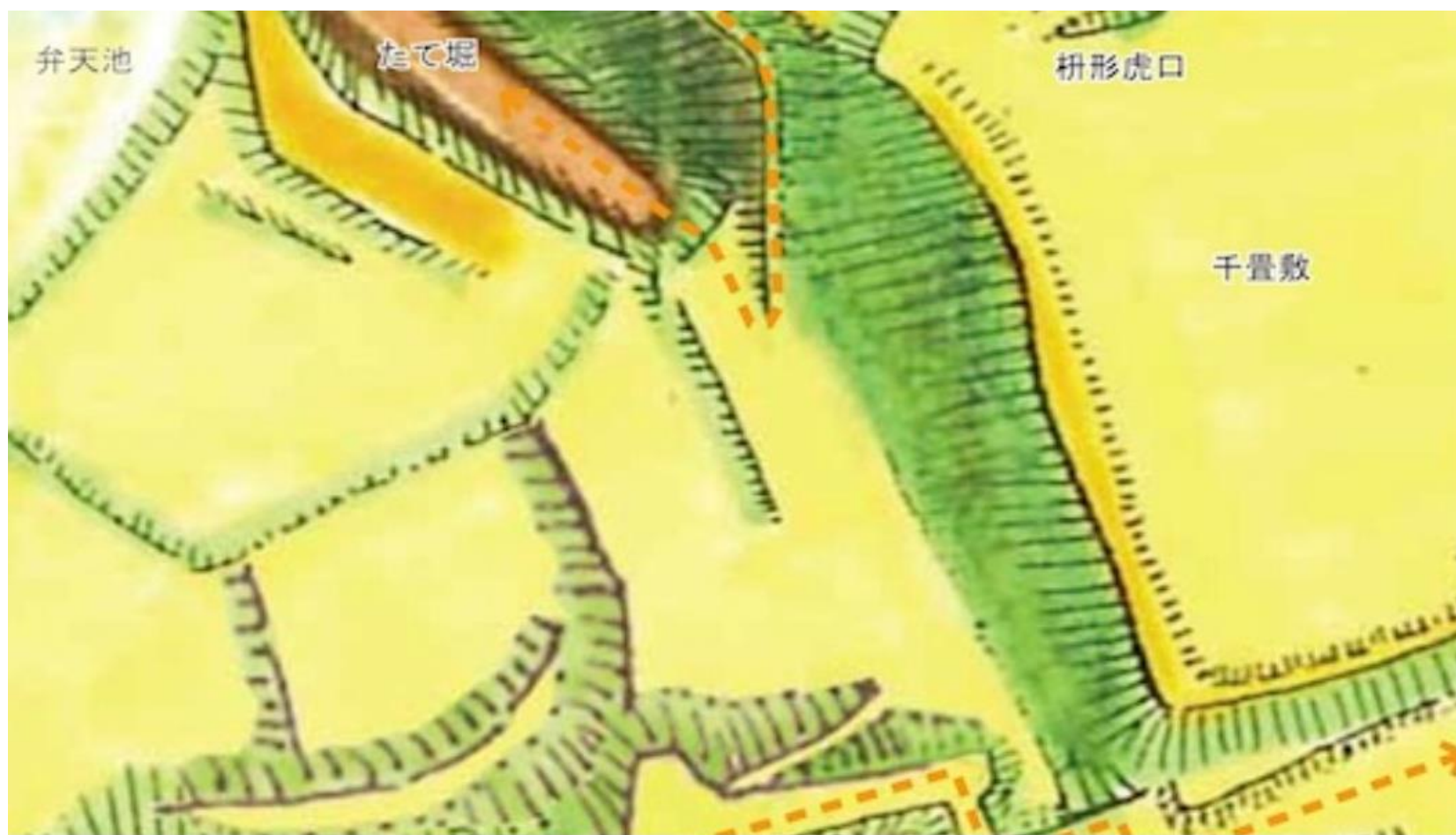


※城道は現在の圖路と違う箇所があります。

解説

堀を掘る際に、一部を土のままに残し通路として使う場所を土橋という。当時はもっと狭く、敵方の侵攻に対して4回も体の向きを変えて進ませ、側面攻撃ができるように工夫していた。

敵の直進を防ぐための土橋であり、大変貴重な城郭遺構である。





手前右手に延びている堀跡を見たところ/右手は三の丸跡/左手もそのエリア



堀跡の先はこんな具合で延びている



土橋を渡ってから見た堀跡



ここが三の丸跡



三の丸跡から今見た堀跡を見下ろしたところ



その右手はこんな具合/この堀跡は三の丸跡を取り巻く堀跡へと繋がっている



それでは三の丸跡を取り巻くこの堀底に下りて見よう



これがその堀底から三の丸跡と堀跡を見上げたところ



さて、ここで三の丸跡を取り巻く堀跡を二の丸跡方向へと進んでみよう



右、左へと折れながら続いている



前方が開けてきた



この先は私有地の耕作地となっているようだ



左手を見上げると二の丸跡への侵入を防御する「千畳敷角馬出」のある辺りが見える



さて、三の丸跡に戻って、これは南西側から北東方向(二の丸跡方向)に見たところ



これは振り返って三の丸跡を取り巻く南西側の堀跡を見下ろしたところ



そしてその右手を見たところ/前方が小宮曲輪の枡形虎口跡があったエリア



さて、大手道へ戻って更に二の丸跡方向へ進む/正面のマウンドの上は千畳敷跡



左手を見ると千畳敷跡への柵形虎口跡が見える



アップで見たところ



ここは「コの字型土橋(4回折り土橋)跡」



さて、「コの字型土橋(4回折り土橋)跡」を抜けてくると、左手が千畳敷跡/右手は三の丸跡のエリア



正面は右手の三の丸跡のエリア



こんな感じ



こちらは左手の千畳敷跡



東側から西方向に見たところ



そこから右手を見ると説明坂がある



うま だし 馬 出

(少人数で守れる出入口前の防御設備)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

虎口(出入口)の前方に設けた空間を馬出こくちという。この場合は方形に作られていることから「角馬出かくうま だし」と呼ばれている。馬出があることによって大変堅固な守りとなり、守備する城兵の出撃も容易である。

二の丸の三ヶ所の出入口には馬出がそれぞれに設けられている。





「千畳敷角馬出」は二の丸跡への侵入を防御する三ヶ所の馬出の一つである

◆二の丸拡大図



前方が「千畳敷角馬出」



ここから右手に堀跡を廻り込んでいく



こんな具合



これは右手の堀跡を見たところ/その右手が千畳敷跡



「千畳敷角馬出」を抜けてから振り返って見たところ



これは堀跡を先程と反対側から見たところ/左手が千畳敷跡



さて、これは千畳敷跡を西側から東方向に見たところ



その左手を見ると説明板がある/正面は北西方向



べん てん いけ
弁天池跡

うたげ
(宴を楽しむような池と推定される)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の圖路と違う箇所があります。

解説

眼下には中の島と池跡が見える。実は、氏照の弟、氏邦の鉢形城(埼玉県寄居町)にも中の島があり、その池を「弁天池」と呼んでいた。

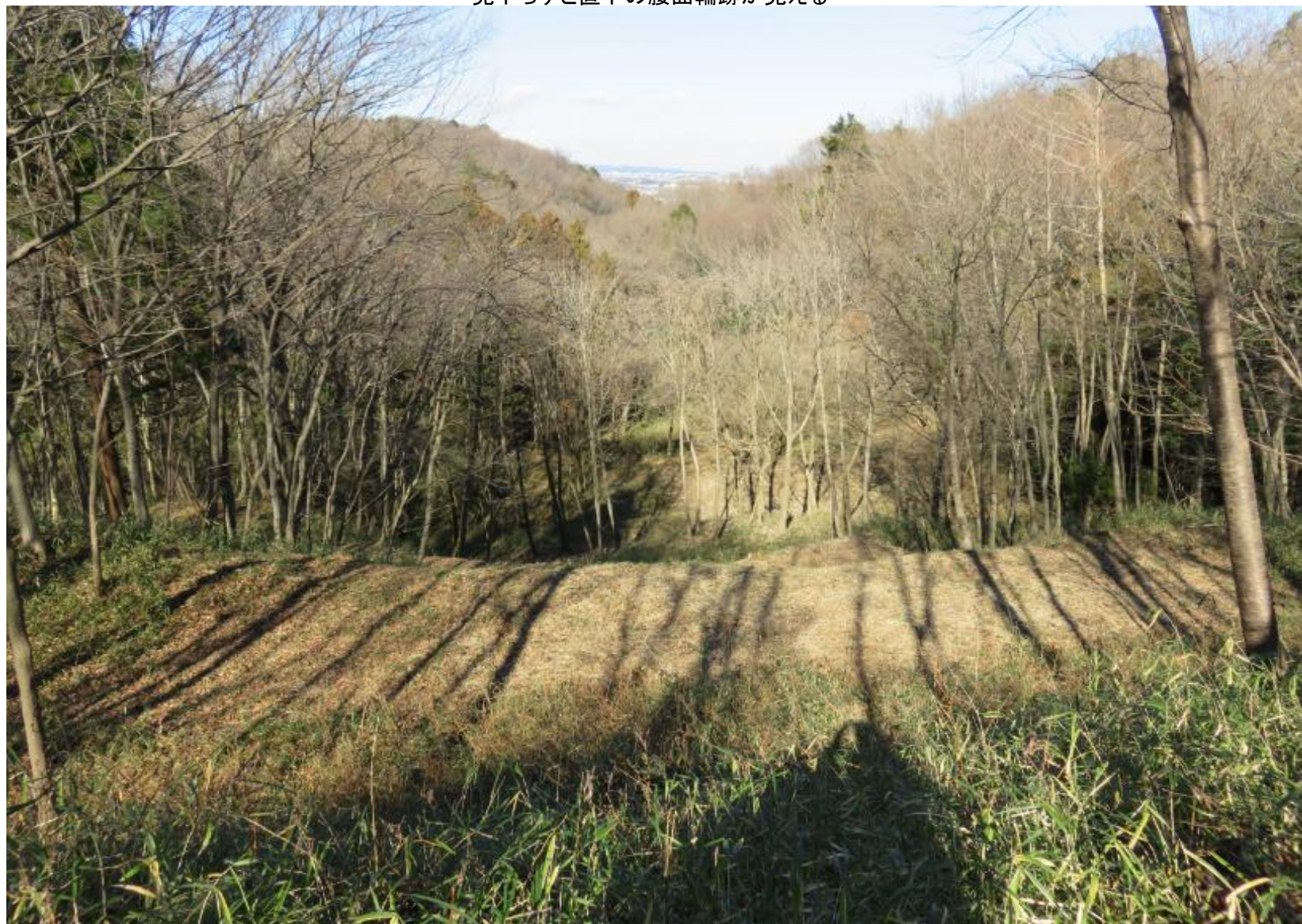
今では池をせき止める土手は分断されているが、当時はつながっていて湧水や雨水を溜めていた。

小舟を浮かべて宴を楽しむような池だったように思われる。





見下ろすと直下の腰曲輪跡が見える



左手を見ると柘形虎口跡のようだ



そこを進むと右手に先程の千畳敷跡直下の腰曲輪跡がある



その腰曲輪跡から北西方向下を見るともう一段、腰曲輪跡が見える



左手を見たところ



右手を見たところ



更に北西方向下をアップで見たところ/この辺りが弁天池跡のようだ



さて、先程の柵形虎口跡を左手に折れていく



ここから下っていく



向こうは三の丸跡方向



振り返って見上げたところ/ここは大手道から見えた千畳敷跡への枡形虎口跡である



その左手を見ると斜面を急激に下っている



これが弁天池跡へ落ちる豎堀のようだ



落ち切った辺り



ここが弁天池跡であろうか



大手道まで戻ることにして/豎堀を見上げたところ



さて、これは大手道で「千畳敷角馬出」とは反対側(右手)を見たところ



敵兵が大手道を進んできて二の丸跡へ攻め込むには、「千畳敷角馬出」へ進む以外にこの城道から攻め込むルートがある



右手を見たところ



その右下を見たところ/前方奥の右手に三の丸跡を取り巻く堀跡が延びてきている



左手を見たところ/堀跡の左手は二の丸跡



敵兵はここを進むと二の丸跡からは丸見えで、城壘上からの攻撃を受けることになる



左手を見たところ



右手を見たところ



更に前方へ行くと、二の丸跡へのもう一つの「角馬出」(左手)や「大馬出」(右手)があり、二の丸跡の防御を固めている



これはもう一つの「角馬出」辺りから振り返って見たところ/堀跡の右手が二の丸跡



もう一つの「角馬出」は後ほど見るとして一旦、大手道へ戻ることとする



正面の上が「千畳敷角馬出」



さて、大手道へ戻り「千疊敷角馬出」を抜けて二の丸跡方向へ進むことにする/手前の堀跡の向こうが二の丸跡



右手を見たところ/今見てきたエリア



城道を二の丸跡方向に進む



突き当たりに出た



左手を見たところ/こちらに進むと中の丸跡、本丸跡に至る



右手を見たところ/こちらに進むと信濃屋敷跡方面に至る/この両サイドは二の丸跡



振り返って今来た方向を見たところ/正面から左手の平場は二の丸跡/手前の城道は信濃屋敷跡方面(左手)に向かう道/東側から西方向を見たところ



二の丸跡/一段上がっているのは仕切り土塁



これは仕切り土塁の向こう側を見たところ



これは仕切り土塁を横から見たところ



信濃屋敷跡方面(右手)に向かう城道の向こう側の二の丸跡のエリアを見たところ



そのエリアを北側から南方向に見たところ/右手の城道を進むと信濃屋敷跡方面に至る



反対にそのエリアを南側から北方向に見たところ



これは仕切り土塁のあった二の丸跡を東側から西方向に見たところ



これは二の丸跡の西側先端から二の丸跡を取り巻く堀跡や千畳敷跡を見たところ



振り返って二の丸跡を西側から東方向に見たところ



右手を見ると土塁状の高まりがある



その向こう側は先に見た二の丸跡を取り巻く堀跡



こんな具合



さて、信濃屋敷跡方面へ進んでみよう



ここは土橋で両サイドは堀跡/正面前方の平場は「東馬出」/ここから先が「喰違い虎口跡」である



左手を見たところ/二の丸跡(左手)と「東馬出」(右手)とを仕切る堀跡



右手を見たところ/「東馬出」(左手)と二の丸跡(右手)とを仕切る堀跡



ここが「東馬出」/信濃屋敷方面から二の丸跡への侵入を防御する平場/北西側から南東方向を見たところ



振り返って見たところ/堀跡の向こうは二の丸跡



北東側の堀跡を見下ろしたところ



「東馬出」を南側から北方向に見たところ



さて、更に進むとまた土橋がある/両サイドは堀跡/前方を左手に曲がると信濃屋敷方面に至る



左手の堀跡を見たところ/その左手は「東馬出」/右手前方は信濃屋敷跡



これはその左手の「東馬出」とそれを取り巻く堀跡を見たところ



右手(信濃屋敷跡とは反対方向)に曲がるとそこは「行き止まりの曲輪」で説明坂がある/信濃屋敷跡方面へは後程行くことにする



くるわ 行き止まりの曲輪 (ふくろのねずみ)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



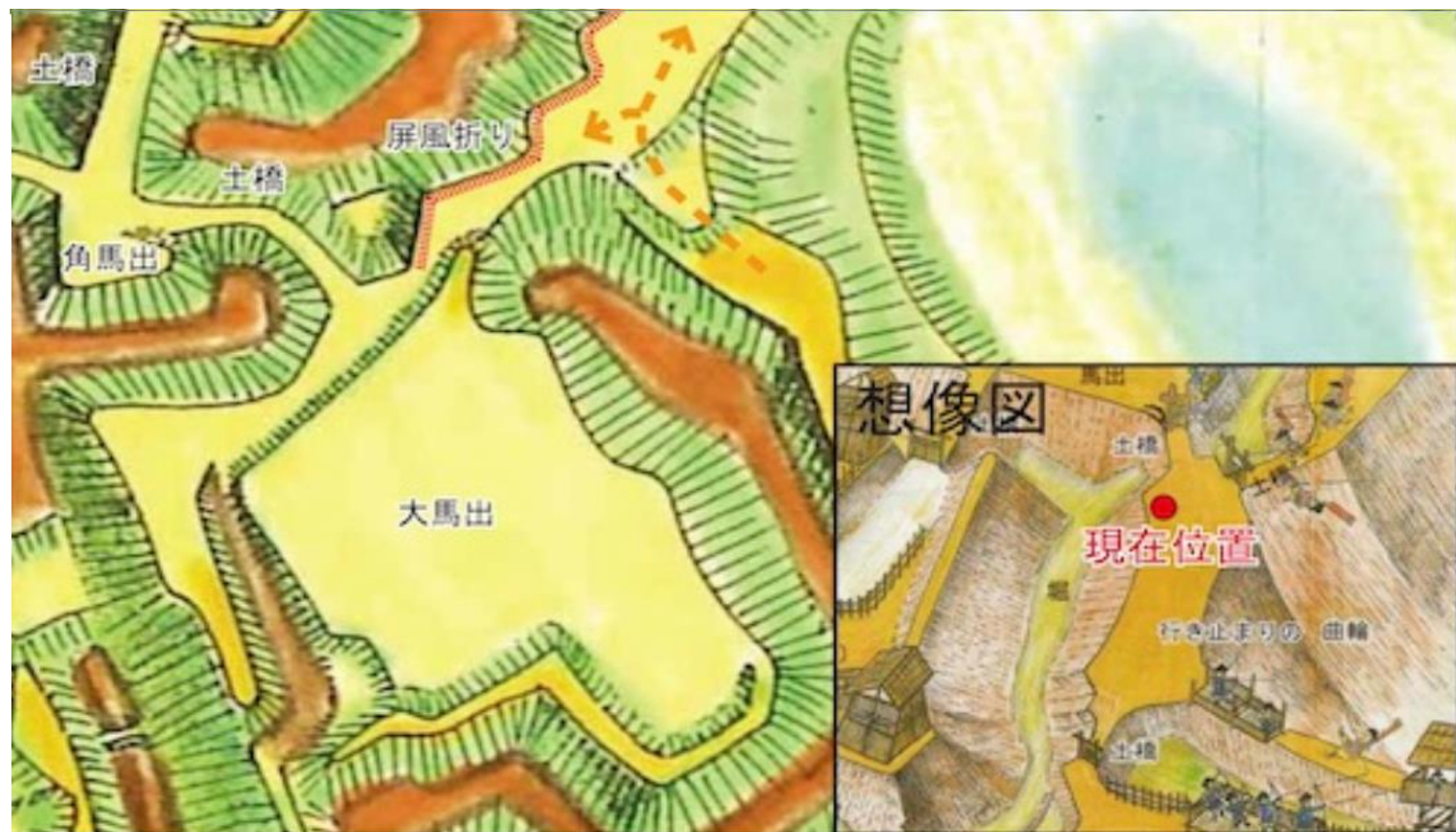
※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

「行き止まりの曲輪」とは「ふくろのねずみ」という意味で、両端が狭い土橋になっていて行き止まりのような形になる。寄せ手側には行き止まりのからくりだが、城兵からすると格好な馬出(出撃用)となり、実に巧みな防御が施されている。

こうした「行き止まり」の曲輪は二の丸の南側にもあり、大変貴重な城郭遺構である。







都立 滝山公園

滝山公園地図



◆新設

この緑の広大な敷地は、二の丸公園敷地の山並み、これらには工夫を重ねて植栽する予定です。また、園内に「滝山」という平野が広がっています。その平野は、この公園の中心地として整備されています。樹木を植栽し、この公園の緑を育てていきます。また、この公園は、自然環境の保全と、地域の活性化を図るための重要な役割を果たす予定です。また、この公園は、自然環境の保全と、地域の活性化を図るための重要な役割を果たす予定です。

◆二の丸公園地図



滝山公園

◆解説

この城の大きな特徴は、二の丸の防御方法にある。二の丸へは三方面から侵入できるが、どの方面にも「馬出」という平場が備えられている。

その中の二ヶ所は方形の平場で「角馬出」と呼ばれている。寄せ手(敵方)はこの馬出を占拠しなければ、二の丸へは侵入できなかった。

こうした二の丸防御の堅固さから、永禄12年(1569)10月、甲斐武田信玄との滝山合戦において、城主氏照は二の丸櫓門の上で奮戦し、敵を退けたと軍記物に語られるようになった。軍記物の記述の真偽はともあれ、このとき氏照は自らの書状で古甲州道沿いの城下「宿三口」へ兵を繰り出し戦ったと、越後の上杉謙信に伝えている。

◆二の丸拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

文責
滝山城跡群・自然と歴史を守る会
東京都西部公園緑地事務所
小宮公園サービスセンター
TEL:042-623-1615

◆二の丸拡大図



右手の部分が「屏風折り」/この先に「大馬出」がある



左手を見たところ/堀跡の右手が「大馬出」



少しこの先に行ってみよう



そこで左手の窪地を見たところ/この前方辺りが大池跡であろうか



振り返って見たところ/堀跡の左手は「大馬出」



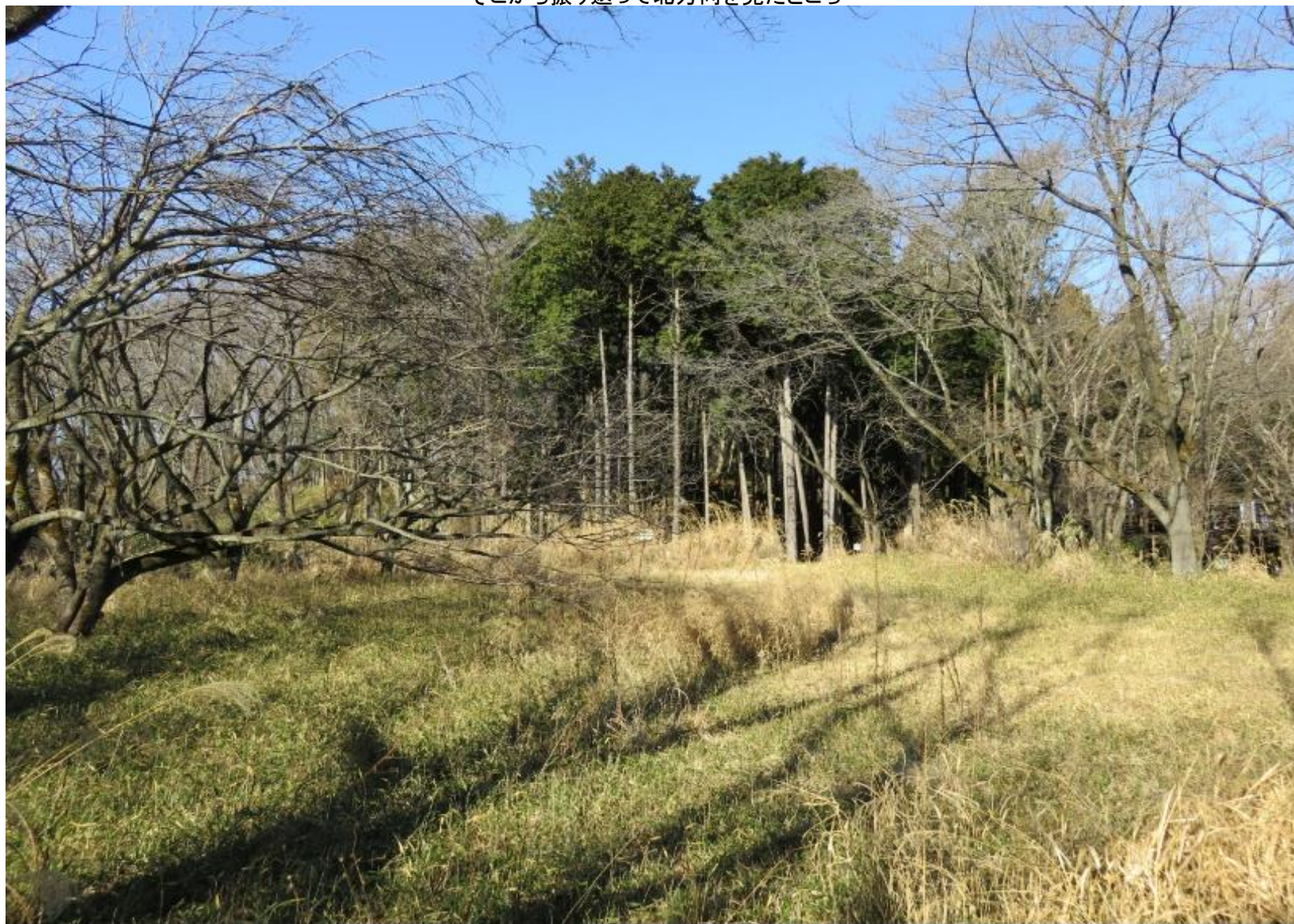
さて、ここが「大馬出」/北側から南方向を見たところ



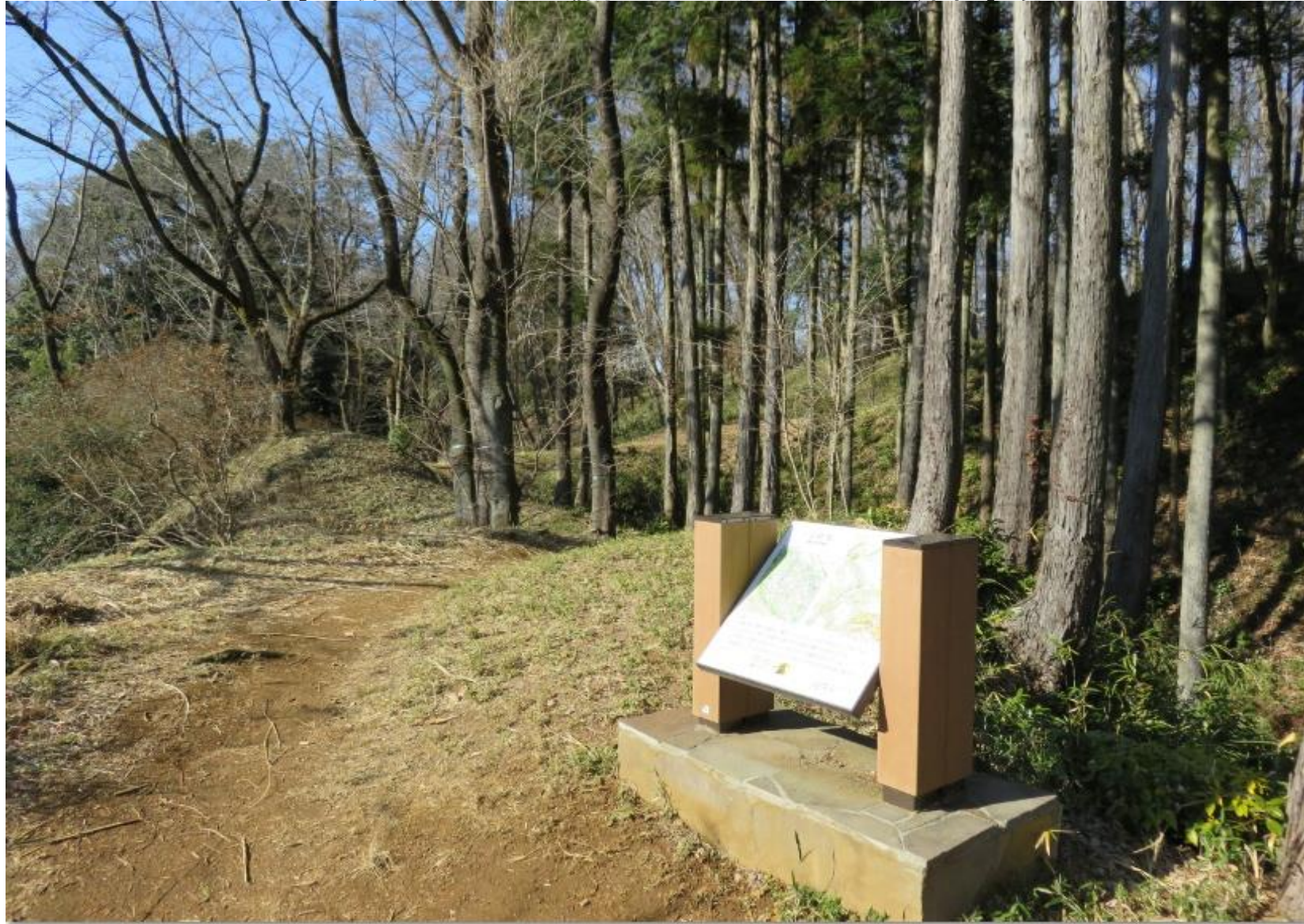
これは「大馬出」南側の土塁を見たところ



そこから振り返って北方向を見たところ

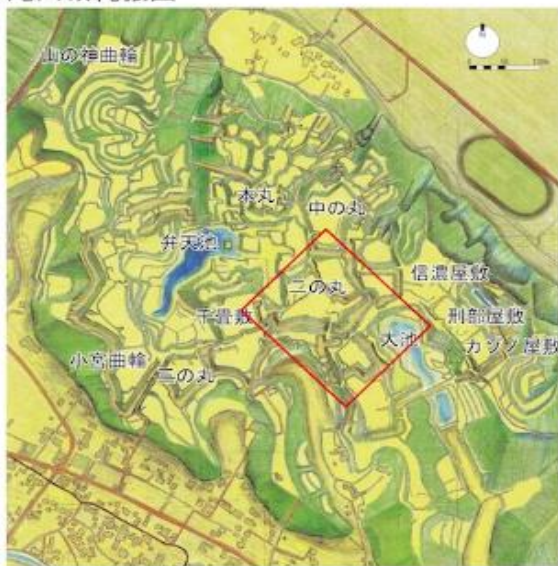


「大馬出」の北側に説明坂がある/左前方にはこの丸跡へのもう一つの「角馬出」が見える



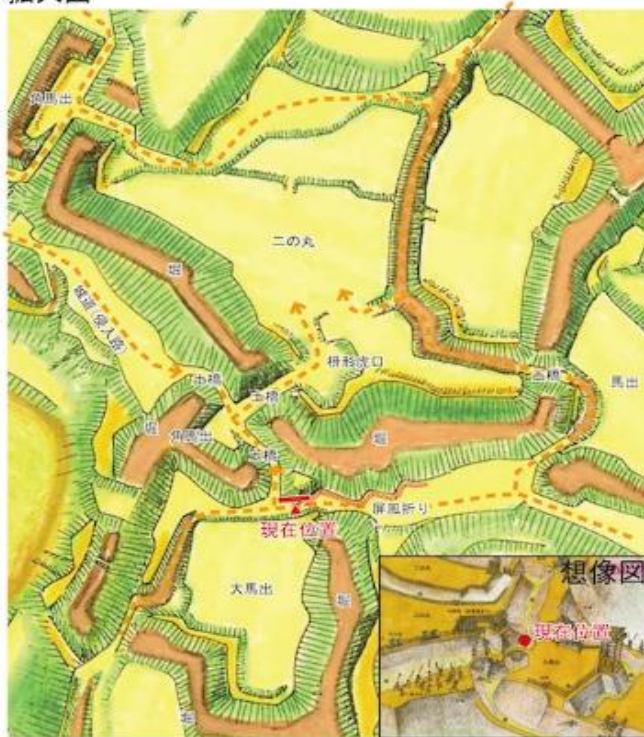
二の丸 (集中的防御)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城遣は現在の圖路と違う箇所があります。

解説

滝山城で最も防御性に優れているのが二の丸である。三ヶ所の出入口にはすべて「馬出」を備え、集中的な防御の構えが認められる。

大馬出は大勢の城兵が守り、二方向からの通路を抑えている。

築城家は、二の丸を防ぐことによって本丸、中の丸を守れると考えたようだ。





正面が二の丸跡へのもう一つの「角馬出」



そこから少し左手を見たところ/堀跡を挟んで右手がもう一つの「角馬出」、左手が「大馬出」



更に少し左手を見たところ/これが「大馬出」の切岸



さて、この土橋を渡ってもう一つの「角馬出」へ進もう



ここが土橋



右手に進むと二の丸跡への土橋を渡る



まっすぐ下ると先に見た「千畳敷角馬出」への城道



二の丸跡への土橋から左手を見たところ



同じく右手を見たところ



これは二の丸跡への土橋から振り返ってもう一つの「角馬出」を見たところ



ここは二の丸跡への枡形虎口跡



柘形虎口跡を抜けると二の丸跡



これは二の丸跡から今通って来た土橋(左手)、もう一つの「角馬出」(中央)、「千畳敷角馬出」への城道(右手)を見たところ



さて、いよいよ二の丸跡から中の丸跡、本丸跡方面に進もう



説明坂がある



中の丸南側の防御 (櫓門の推定)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



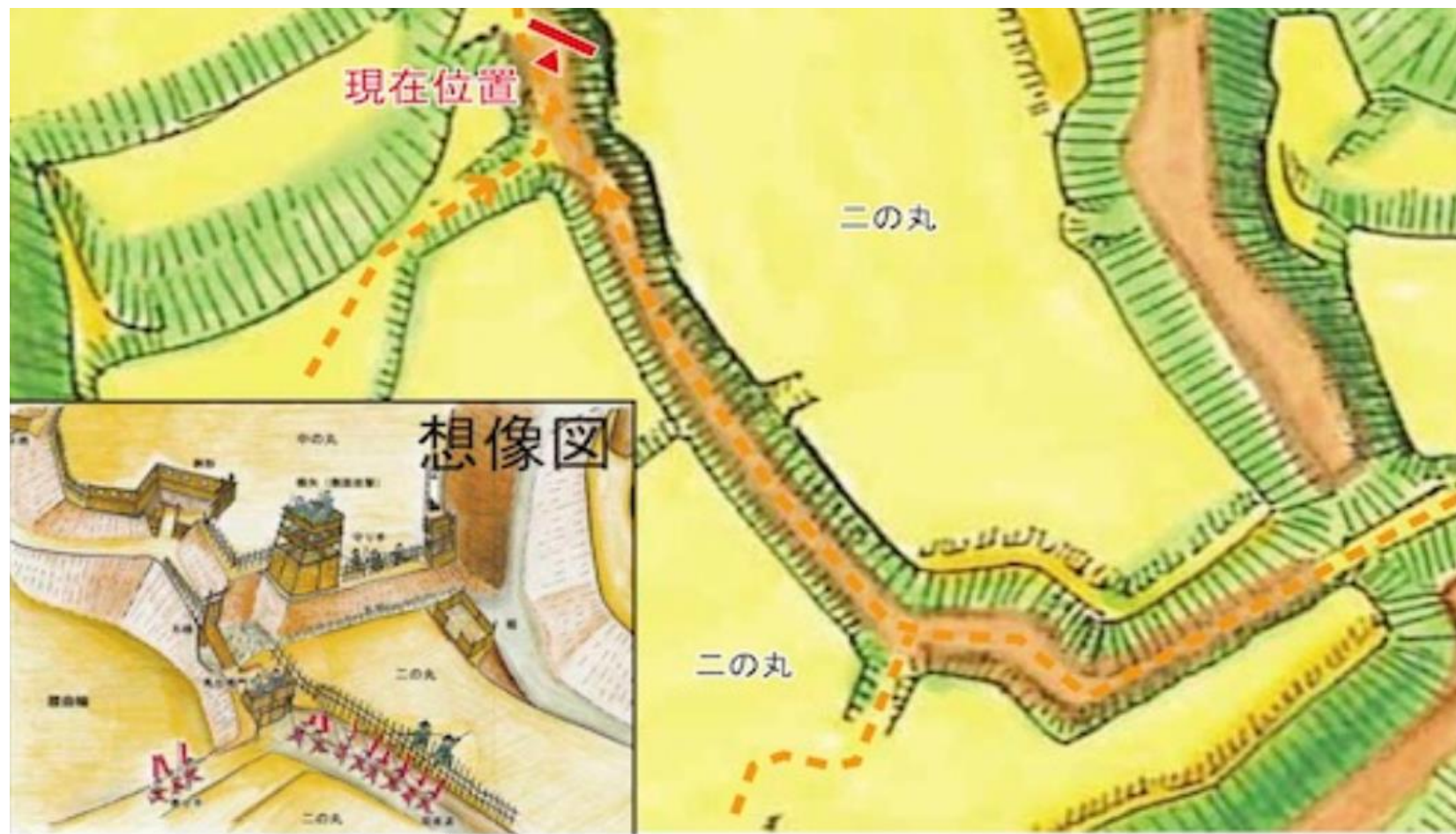
※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

中の丸の南側は二方向から攻め寄せられ敵が合流できる場所だった。

この場所には木橋の前面を守る防御設備が必要である。土塁の残り方から考えて、櫓門があったのではないかと推定される。





右手が中の丸跡で手前に堀跡がある/左手は腰曲輪跡



左手の腰曲輪跡を見たところ



更に左手を見たところ/かなり広い



右手の堀跡を見たところ/左手が中の丸跡、右手は二の丸跡



堀底を進んでみる



その先はこのように更に深い堀跡となって中の丸跡(左手)、二の丸跡(右手)を取り巻くように廻り込んでいる



これは右手の二の丸跡を取り巻いて延びる堀跡を見たところ



これは振り返って堀跡を見たところ/左手が二の丸跡、右手は中の丸跡



左手の二の丸跡の切岸を見上げたところ



右手の中の丸跡の切岸を見上げたところ



さて、この先に中の丸跡と本丸跡に架かる木橋がある/右手は中の丸跡への柵形虎口跡



これが中の丸跡への枡形虎口跡



前方右手の建物は中の丸跡に建つトイレ



中の丸跡から振り返って見た柘形虎口跡



都立 滝山公園

滝山城縄張り図



設置年月：平成25年3月

作成：中田正純

◆解説

滝山城は、相模小田原城に本拠を置く戦国大名北条氏第4代当主氏政の弟氏照の居城である。純粋の児軍さから、全国有数の戦国時代の城郭として評価されている。

北条氏照は、これまで「大石系図」などにより武蔵守護代の系譜を引く大石定久の養子として滝山城に入ったとされていた。しかし、近年の研究では、氏照は幼名を藤菊丸と称し、浄福寺城(市内下恩方町)を拠点に由井宗を支配していた大石通俊(定久か)の子、大石頼周の養子になったと考えられている。

滝山城の築城年代や氏照の入城時期は不明な点があるが、永禄10年(1567)までには滝山城を居城としていたとみられる。

永禄12年(1569)10月、甲斐の武田信玄が小田原城攻略の途中、その道筋にあった滝山城を包囲した。押鳥大日堂の森(沼田市)に陣取った武田勢は周辺の村々を焼き払い、滝山城を爆城にしたと伝えられている。このとき氏照は、古甲州道沿いの城下「巖三口」へ兵を繰り出し戦ったと、越後の上杉謙信に自らの書状で伝えている。

その後、天正10年(1582)ごろから新城の築城工事が始められ、約15年までには滝山城から八王子城(市内元八王子町)へと移っていったのである。

◆八王子市の城跡跡



この図は、八王子市の城跡跡を示しています。城跡跡の位置は、地図上の赤い点で示されています。城跡跡の名前は、地図上の赤い文字で示されています。



室内パンフレット



滝山公園

◆解説

滝山城は、相模小田原城に本拠を置く戦国大名北条氏第4代当主氏政の弟氏照の居城である。縄張りの見事さから、全国有数の戦国時代の城郭として評価されている。

北条氏照は、これまで「大石系図」などにより武蔵守護代の系譜を引く大石定久の養子として滝山城に入ったとされていた。しかし、近年の研究では、氏照は幼名を藤菊丸と称し、浄福寺城（市内下恩方町）を拠点に由井領を支配していた大石道俊（定久か）の子、大石綱周の養子になったと考えられている。

滝山城の築城年代や氏照の入城時期は不明な点があるが、永禄10年（1567）までには滝山城を居城としていたとみられる。

永禄12年（1569）10月、甲斐の武田信玄が小田原城攻略の途中、その道筋にあった滝山城を包囲した。拝島大日堂の森（昭島市）に陣取った武田勢は周辺の村々を焼き払い、滝山城を裸城にしたと伝えられている。このとき氏照は、古甲州道沿いの城下「宿三口」へ兵を繰り出し戦ったと、越後の上杉謙信に自らの書状で伝えている。

その後、天正10年（1582）ごろから新城の築城工事が始められ、同15年までには滝山城から八王子城（市内元八王子町）へと移っていったのである。

八王子市の城館跡



これは中の丸跡を南側から北方向に見たところ



これは南東側から北西方向を見たところ



これは中の丸跡東側の土塁/南側から北方向に見たところ



その土塁上に登って見たところ



右手の堀跡を見たところ



これはトイレ裏(南側)の土塁を東側から西方向に見たところ



その土塁上に登って見たところ



左手の堀跡を見たところ/その向こうは二の丸跡



これは中の丸跡の北側で北方向を見たところ/説明坂が立っている



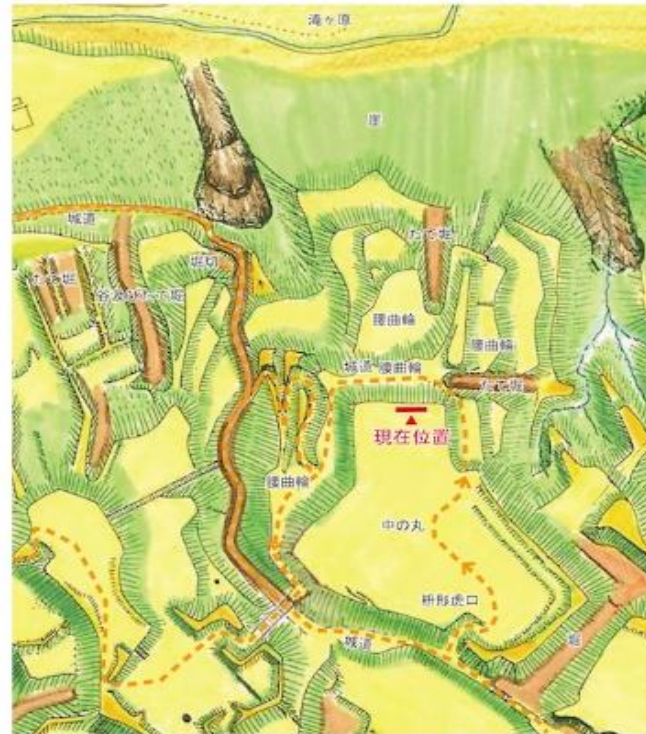
なか まる
中の丸
 (本丸の次に重要な曲輪)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

「中の丸」の山腹には腰曲輪と呼ばれる^{こしくるわ}平場^{ひらば}が多摩川に向かって数多く設けられている。このことから、北側の多摩川方面に対して警戒していたと考えられる。

附近には河越道の渡河地点である「^{たいら}平の渡し」がある。この重要な地点を抑えるために滝山城は構築されたと考えられる。





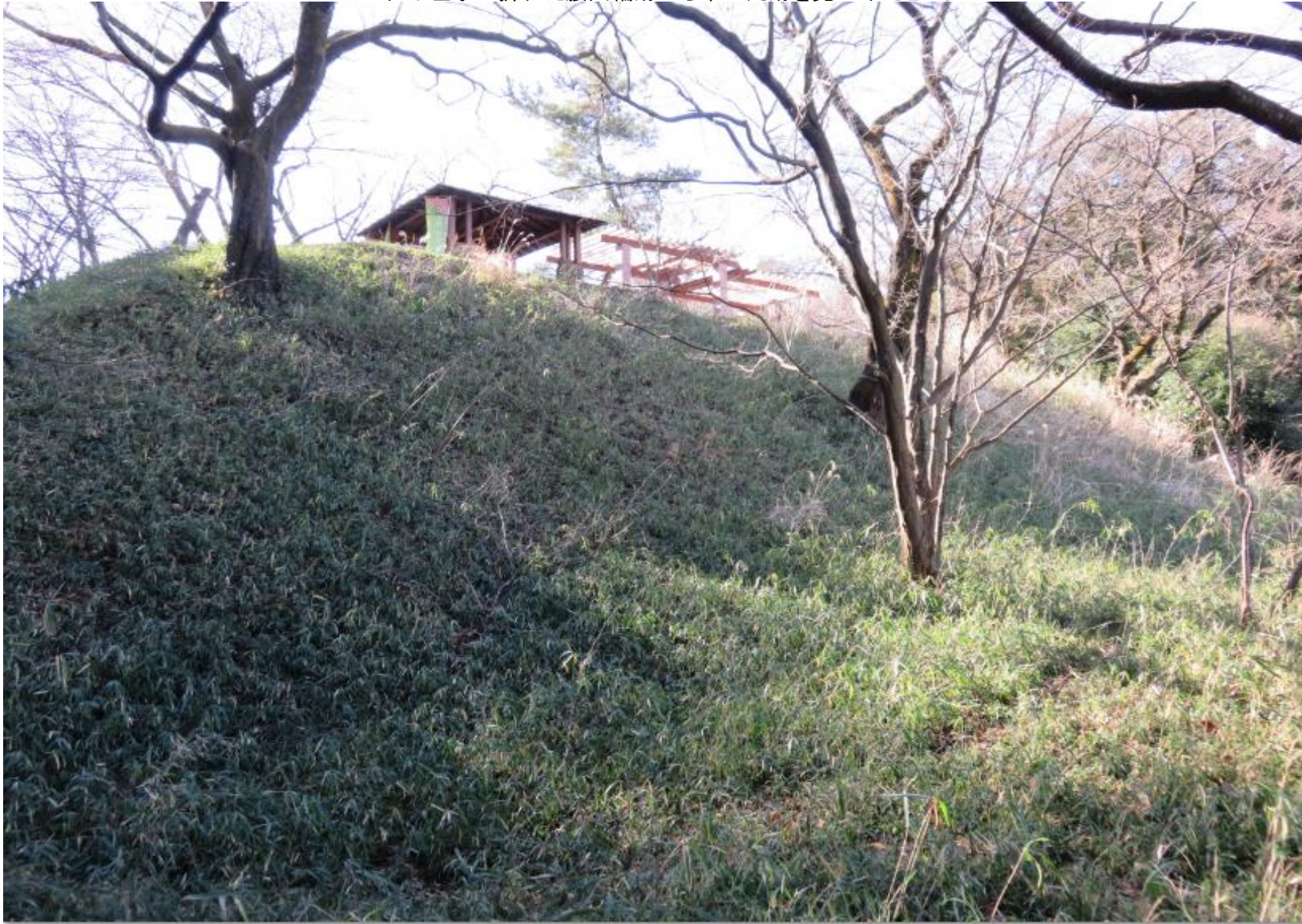
多摩川が見える



右手から腰曲輪跡に下りてみる



これは左手に折れた腰曲輪跡から中の丸跡を見上げたところ



これはその右手にある豎堀を見たところ



これは中の丸跡を北東側から南西方向に見たところ



ここは中の丸跡の北西側



そこから北側下を見ると腰曲輪跡の平場が見える



さて、中の丸跡の西側に木橋が架かっている/この向こうに本丸跡がある



木橋の下の城道から木橋を見上げたところ



木橋を渡って本丸跡へ進もう



左下を見たところ/腰曲輪跡が見える



右下を見たところ/下は搦手口からの城道のようにだ



さて、ここは本丸跡への枡形虎口跡



左手を見たところ



右手を見たところ



向こうが本丸跡



国史跡 滝山城跡・枳形虎口

この山城は、河内地方の山城として著名な本丸虎口
と櫓の跡が残り、2007年度国の史跡に指定された。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。

滝山城跡は、河内地方の山城として著名な本丸虎口
と櫓の跡が残り、2007年度国の史跡に指定された。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。



本丸の虎口
本丸に土塁で囲われていることが分かります。
右側の土塁と土塁との間に土塁の跡が残り、土塁の跡が分かります。

調査の結果、櫓跡の跡から調査
したところ、2007年度国の史跡に指定された。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。

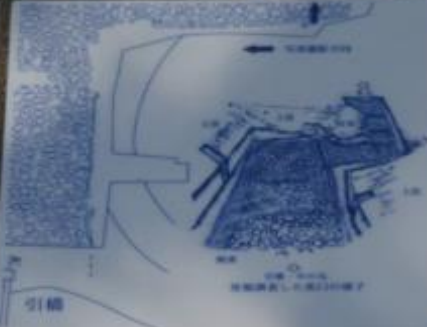


写真-2 堀溝
写真-3 枳形虎口の石道

AR
滝山城跡



枳形虎口に
埋められた石
枳形虎口は土塁
石で埋められていた。
（写真-1）
これは、櫓跡の跡から調査
したところ、2007年度国の史跡に指定された。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。中
世末の山城の遺跡の調査を断るものである。



写真-1はその石を
一枚一枚と取り除いた
状態です。



本丸入口付近
道路の跡は土塁が崩れることにより残り、この部分では約3.0m
と分かります。これは、土塁の跡の跡を踏むための工夫と想
われます。



枳形虎口全景
右手側が引橋、中央は、左手側が本丸になります。

ここが本丸跡/東側から西方向を見たところ



これは南側から北方向を見たところ/北側は一段上がっている



これは井戸跡のようだ



東側に標柱が立っている





そこから北方向を見たところ/一段上がったエリアには社殿が建っている



これは西側から東方向を見たところ/前方に枡形虎口跡がある



これは北西側にある石碑



その左脇にある上の段への虎口跡



こんな具合



少し進んでから振り返って見たところ



上の段への虎口跡から本丸跡を見たところ



これが上の段にある社殿





霞神社とある



脇にはさまざまな石碑が立っている





霞神社由緒

明治三十七八年戦役（日露戦争）に武勲を樹て
散華された英霊を奉斎せん爲明治四十五年五
月一日當時の在郷軍人會加住村分會の首唱によ
つて史蹟である北條氏照の居城滝山城趾本丸跡
を卜し神社を創建して霞神社と稱したこの
時に奉斎の英霊は十五柱で爾後毎年盛大な
慰霊顯彰の祭典が奉仕され來つた昭和の御代
となり満洲事変支那事変及び大東亞戦争に出
征し戦功を挙げた戦歿された者百二十九柱の
英霊を更に合祀して今日に至つた今回
八王子市合併を機とし加住地區遺族會が發起し
て設立された滝山霞神社銘碑建設協賛會により
ここに碑を建て霞神社御祭神芳名を録しその
勲功を永久に傳へんとするものである

昭和三十三年四月祥日
靖國神社権宮司池田良八謹撰并書

霞神社の奥にも社殿が見える



上の段を南側から北方向に見たところ



これが霞神社の奥にある社殿



これは金毘羅社





由来

国史刻 滝山城本丸橋台に鎮座する金毘羅社は、今を去る二百年余り前天明（一七八一）年代に滝村
 持ちも造り営まれたと武蔵成土記に記載されています。よみ時代から本丸一帯は徳の滝村（現金子市青
 柳池地）持ちも年々の免除地として受け継がれており（地区の氏神物形神社境外地）滝の城山とも呼ばれ
 広く滝山城の名を後世に伝えてあります。

戦国の乱世は去り、古時滝村では広い小田の米、豊富な薪炭、川魚等を産物とし豊かな村として
 栄え、多摩川の漁場は御本丸御用地に指定され、將軍へ鮎の献上を行ったと記録されています。
 農閑期には多摩川、秋川が合流する地の利を生かして、江戸の繁栄に伴う需要増から林材の
 中継地として、材木代を組み物資を束ね多摩川を下り、江戸への輸送を村ぐるみで生業とし、
 その成果は拝島、熊川へ農地を拡大して栄えて木よし村。

江戸文化華やかになりし頃、村人たちが水運の安全と事業の繁栄を願って、多摩川を一望できる当
 所に海運（開運）の神林として名高い金毘羅様を祀ったのであります。以来、農業、殖産に
 家内安全、無病息災などの願いをこめて下さる神様として近郷近在より多くの信者が参詣して
 賑わいを見せていたと語り継がれています。

地域の文化、産業の発展に多大な貢献をした先祖の残した貴重な遺産であり、八王子市の名所
 都立滝山公園内にある「神社」として、文化、経済の発展と無病息災、永遠の平和を祈願し、
 金毘羅社の氏子、加住地区有志の御奉賛により創建二百年事業として社殿の再建を行いました。

十成六年十一月廿日
 金毘羅地再建委員会

これは本丸跡の上の段の北側で北方向を見たところ/説明坂がある



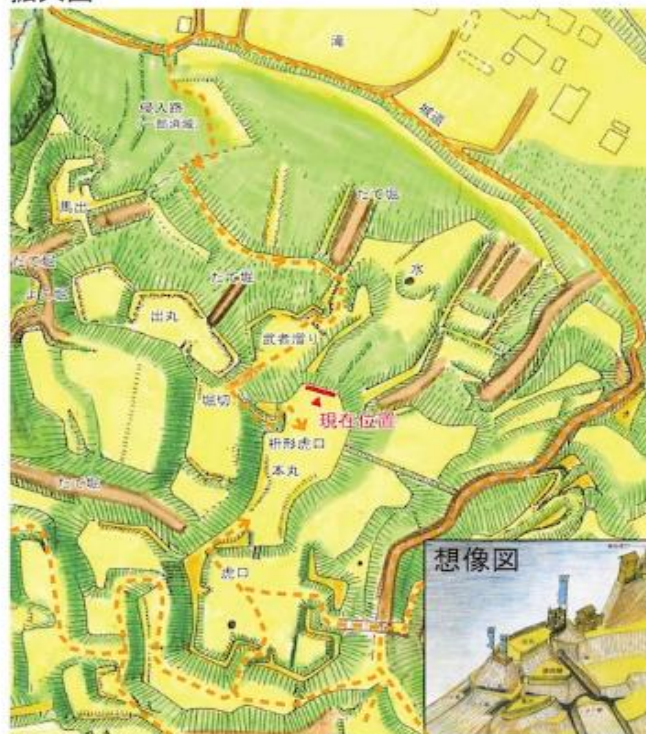
たきしゅうらく ほんまる
滝集落から本丸への侵入路
 (搦手口からの侵入路)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



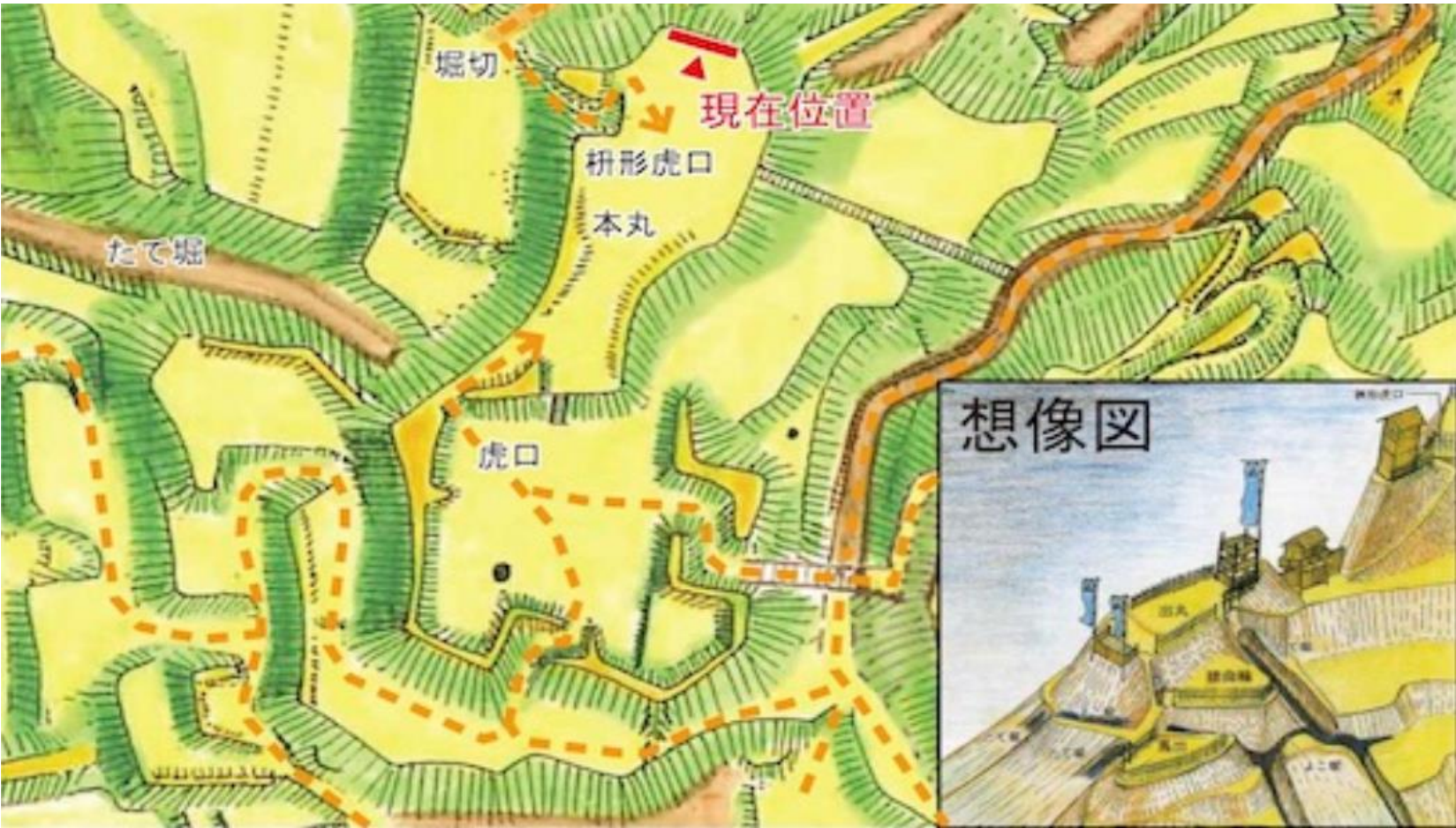
※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

本丸北西側の枡形虎口(出入口)は滝集落からの侵入路を抑えている。この侵入路を防御するため、出丸と本丸から挟み打ちできるように工夫している。(二方向から敵を挟んで攻める)

出丸の先端部分には馬出を備え、縦横の堀と共に強力な防御態勢を整えていたと思われる。





多摩川が見える/天然の要害だ



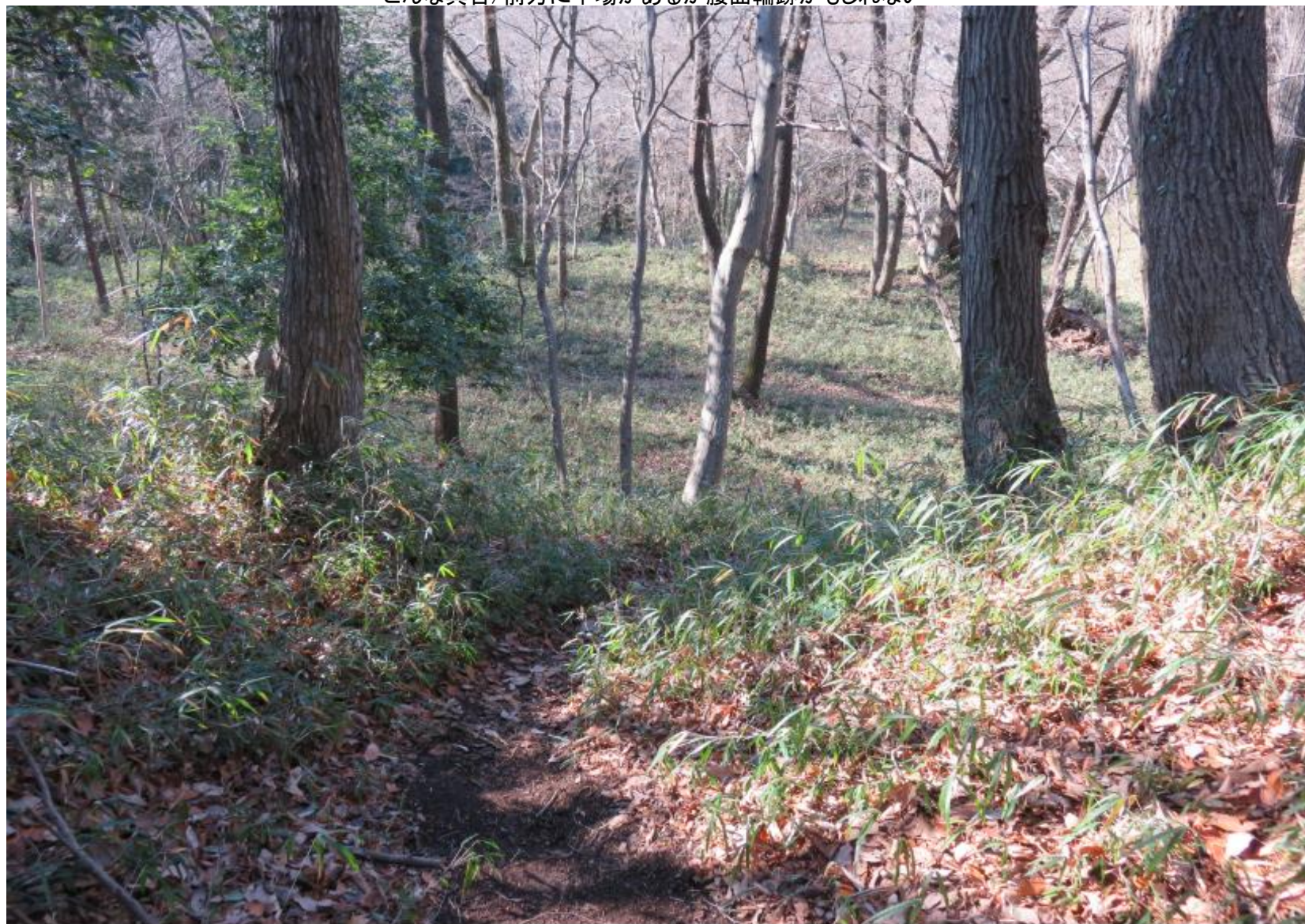
これは本丸跡の上の段を北側から南方向に見たところ



ここが本丸北西側の枡形虎口跡



こんな具合/前方に平場があるが腰曲輪跡かもしれない



こんな感じ



その右手を見ると前方に出丸跡が見える



正面のマウンドの上が出丸跡/右手には堀跡が見える



これがその堀跡/左手が出丸跡/右手は本丸跡



その先には武者溜り跡がある



こんな具合



さて、出丸跡に登ってみよう



これは出丸跡に登って南側から北方向を見たところ/前方には土塁がある



こんな具合



この部分は豎堀跡



豎堀はこんな具合に斜面を下っていく



これは出丸跡を東側から西方向に見たところ/右手に土塁が見える



そこで振り返ると堀跡の向こうに本丸跡にあった金毘羅社の社殿が見える



これは出丸跡を西側から東方向に見たところ



振り返って西方向を見たところ/下にも平場があるようだ



さて、出丸跡を下りて右手に出丸跡を廻り込むように進んでみよう/正面も腰曲輪跡のようだ



堀跡のような感じになっている/右手は出丸跡の切岸



右手に廻り込んだところ/横堀のようだ/右手は出丸跡の切岸



そこで左手を見たところ



豎堀のようだ



また少し進んだ左手にも豎堀がある



ここは出丸跡の北西側に進んで出丸跡の切岸を見たところ



振り返るとここは馬出跡のエリア



こんな平場になっている



出丸跡の切岸上から正面にその馬出跡のエリアを見下ろしたところ



その右手方向には城道と堀跡が続いている



こんな感じ



さて、本丸跡に戻って南側にある枡形虎口跡を見てみよう/本丸跡から南方向を見たところ



枅形虎口跡を抜けて振り返って見たところ/説明坂がある



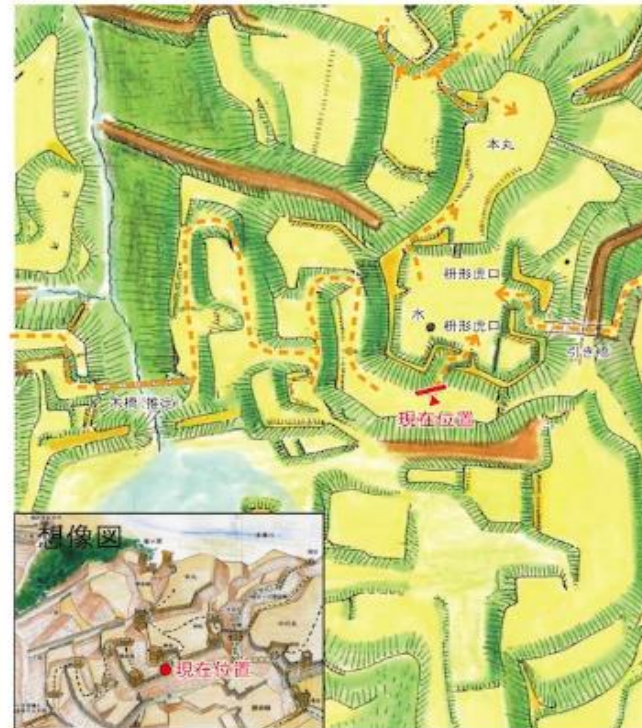
ほん まる ます が た こ ぐち
本丸南側枡形虎口
 (小宮曲輪からの城道)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

本丸の主たる出入口は二ヶ所ある。一ヶ所は中の丸から引き橋を渡って入るこぐち虎口。もう一ヶ所は南側に設けられている。

枡形は敵の直進を防ぐための工夫である。もし敵がこの虎口に侵入すると、体の左側に城兵の攻撃を受けることになる。現在でも枡形が大変よく残っている城郭遺構である。





さて、本丸跡の南側にある枡形虎口跡から東方向に下りると中の丸跡と本丸跡に架かる木橋の下に出る



振り返ると下に先に見た腰曲輪跡が見える



ほん まる き ばし
本丸への木橋
(最終的な砦へ導く橋)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

当時の木橋はもう少し下に架けられていた。おそらく、中の丸に敵が押し寄せてきたら本丸へ半分程度引き込むことができたと思われる。

人工的に掘られた大堀切の上に架けられており、本丸が最終的な砦となっていた様子がわかる。

「大堀切」はもっと深かったことが試掘によって確認されている。





この城道は「大堀切」だったという



それではここで、この先にあるこの城道の入口である搦手口を見てみよう



これは多摩川の土手から南方向に滝山城跡を見たところ/正面辺りが本丸跡のエリアか



その左手を見たところ



右手を見たところ/高月城跡はこの方向の1.5km先にあるという



さて、この道路の先から搦手口を進んでみよう



前方を左手に折れて進んでいく



左手を見たところ/切岸となっている



このような土塁状の地形が続く



搦手口の右手はこのような竖堀状のところが何ヶ所か見られる



この谷は山の神曲輪跡の辺りへ繋がるのか



ここも覗いてみよう



小祠があり急な斜面となっている



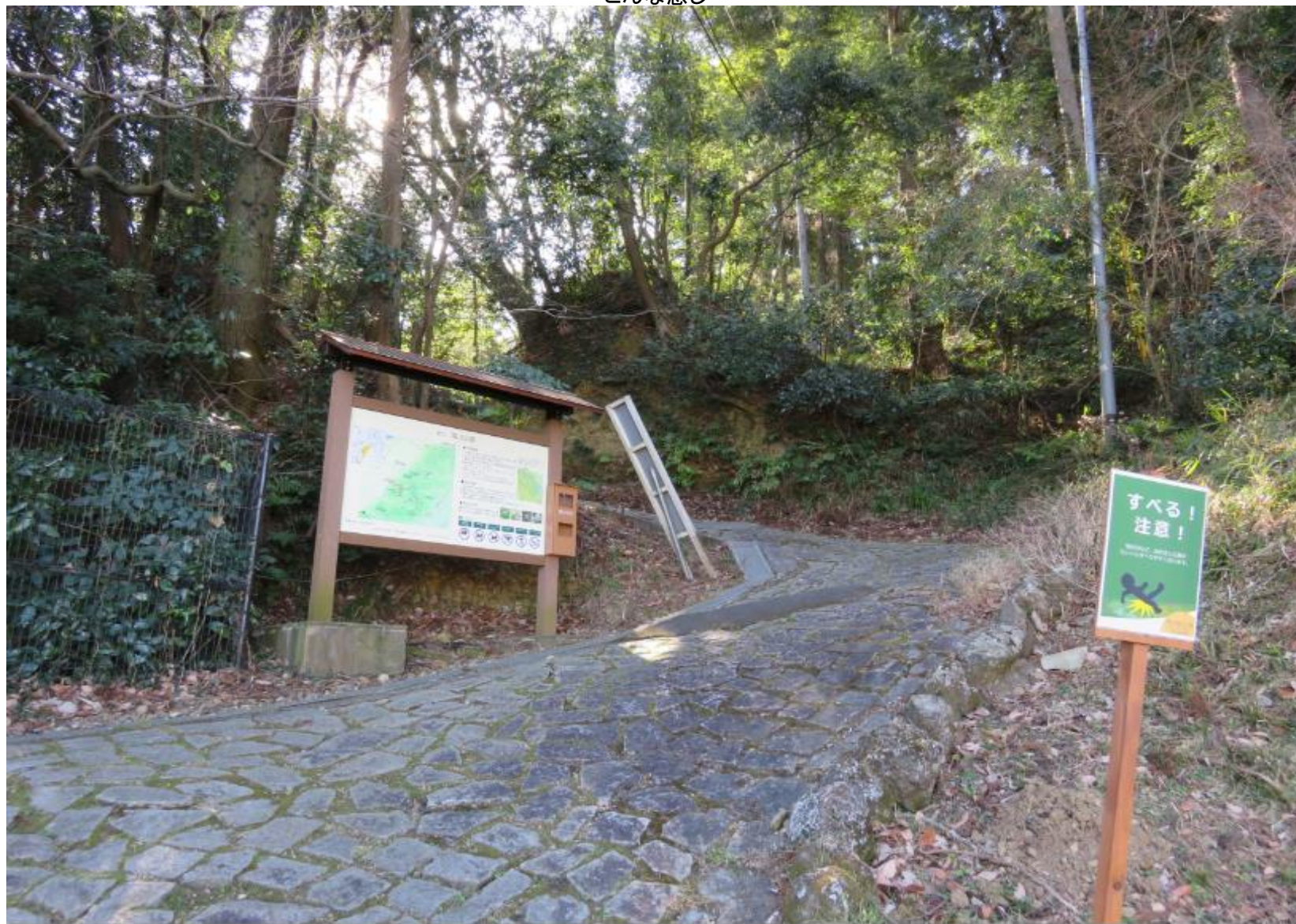
ここも豎堀跡なのか



搦手口の城道はこの先で右手に折れている



こんな感じ



城道は右、左と折れながら登っていく



左手は中の丸腰曲輪跡の切岸



右手のこの階段を登ると本丸跡の金毘羅社の社殿へ至る



前方に中の丸跡と本丸跡に架かる木橋が見えてきた



左手が中の丸跡、右手が本丸跡



さて、今度は「東馬出」から信濃屋敷跡方面に城道を進もう



正面の木々の中が信濃屋敷跡



ここが信濃屋敷跡/南側から北方向に見たところ



振り返って南方向を見ると仕切り土塁状の向こうに平場が見える/こちらが刑部屋敷跡のようだ



先程の城道を更に刑部屋敷跡方向に進む



左手に説明坂がある



ここが先程見えた刑部屋敷跡/西側から東方向に見たところ



これは北方向(信濃屋敷跡方向)を見たところ



これは反対に南方向を見たところ/この刑部屋敷跡の向こうにはカゾノ屋敷跡(前方の仕切り土塁状の向こう)が続いているようだ



ここがカゾノ屋敷跡/北側から南方向を見たところ



その南側には土塁がある/この向こうは堀跡になっている



さて、先程の城道をカゾノ屋敷跡の南方向へ進むと木橋が架かっている/この城道は「古峰の道」で城下に続いているようだ



木橋で左手を見ると先程のカゾノ屋敷跡の土塁の先にある堀跡が見える/左手がカゾノ屋敷跡



これは木橋を渡って振り返って見たところ/右手前方がカゾノ屋敷跡/手前に説明坂がある



木橋 (引き橋)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

唯一尾根続きのこの場所は、滝山城の弱点であったと考えられる。そのため、防御は嚴重を要した。

この橋は「引き橋」だったと思われる。橋の下の堀は大池の土手とながり、一大防御線を考えた縄張(城の設計)になっていた。





左手を見たところ/この下には大池があるようだ



さて、最後に小宮曲輪跡から山の神曲輪跡へと進んでみよう/ここは小宮曲輪跡の柘形虎口跡があるところ



小宮曲輪跡を北方向に進む



右手は急峻な崖状となっており、その下は千畳敷跡下にある弁天池跡に繋がるようだ



この辺りも小宮曲輪のエリアで仕切り土墨状に何ヶ所かの平場に仕切られているようだ



こんな具合



さて、更に北方向に進もう



この先は左手に折れて下っている



こんな具合



前方に説明坂がある

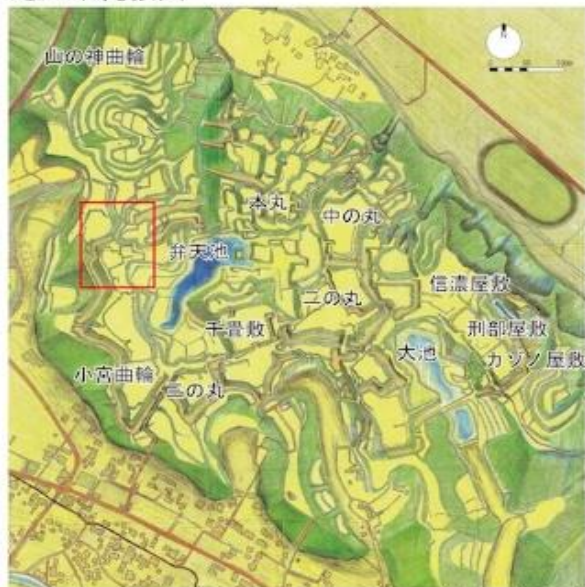


坂を下って振り返って説明坂を見たところ/後のマウンドは櫓台跡のようだ/右手は堀跡で小宮曲輪跡を取り巻く堀跡に続くようだ



くる わ ま す が た こ く ち
小宮曲輪枡形虎口
 (北の備え)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図

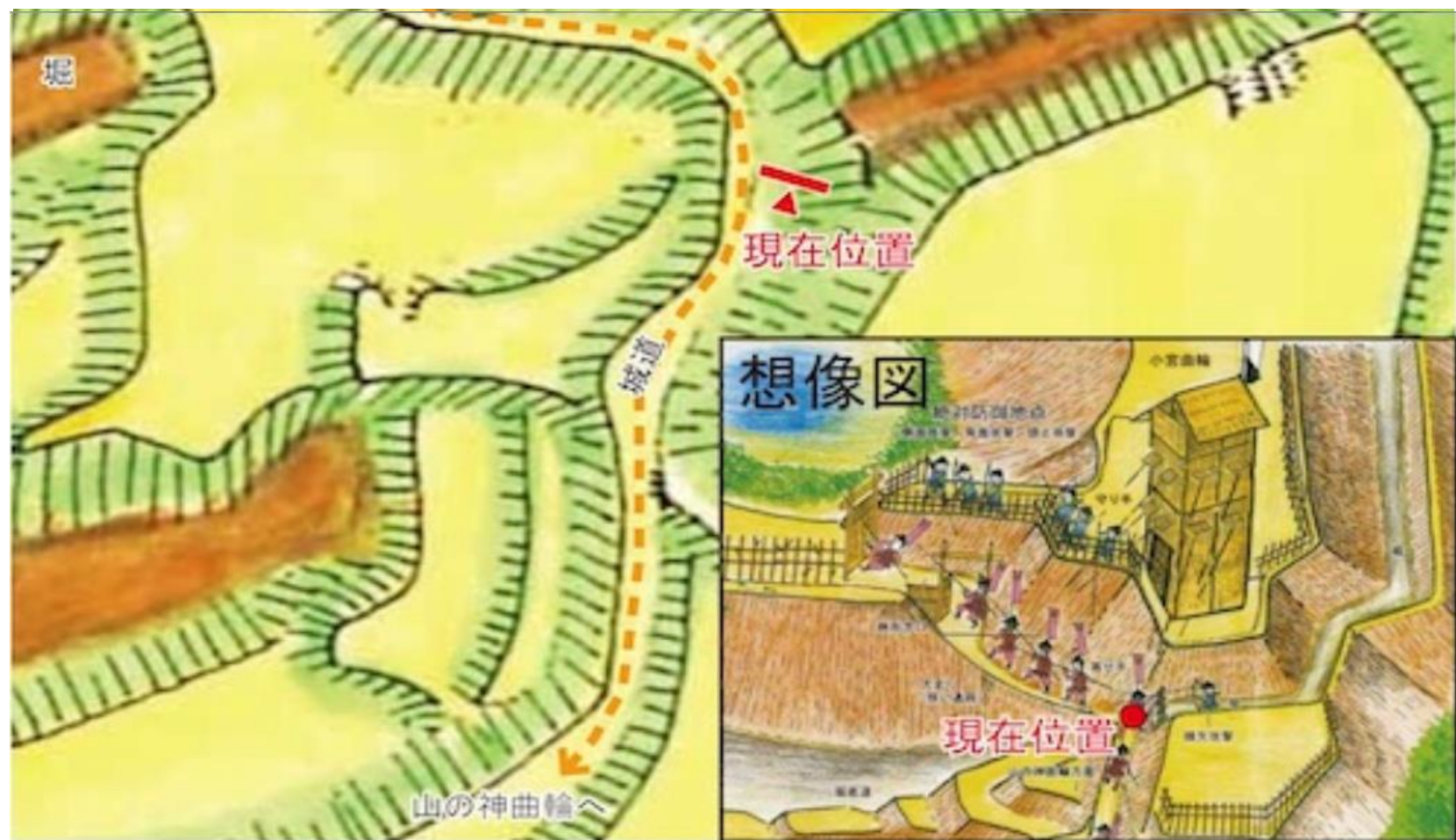


※城道は現在の園路と違う箇所があります。

解説

山の神曲輪方面から小宮曲輪へと攻め進むには、枡形虎口(出入口)を通過しなければならない。敵は狭い通路で一列縦帯にならざるを得ない。それに対して城兵は、敵の頭上や側面から弓矢、槍、鉄砲で攻撃をする。敵にとってははてごわい場所に攻め入ることになる。





今下ってきた坂を見上げたところ



ここは柵形虎口跡であったようだ



これはその先の坂を登り切ったところで、ここが枡形であったようだ



ところでこれは右手に見えた堀跡で、この先は山の神曲輪跡を見た後で行ってみよう



振り返るとちらは弁天池跡方向へ急激に下っている



さて、山の神曲輪跡方向へと更に北方向に進もう



ひたすら北方向へ進む



冬場でもこんな具合



前方に山の神曲輪跡のエリアが見えてきた



ここが山の神曲輪跡



北側に案内板がある



くるわ
山の神曲輪
(民衆の避難場所と推定される)

滝山城縄張図



作図：中田正光

拡大図



※城道は現在の園路と違う箇所があります。

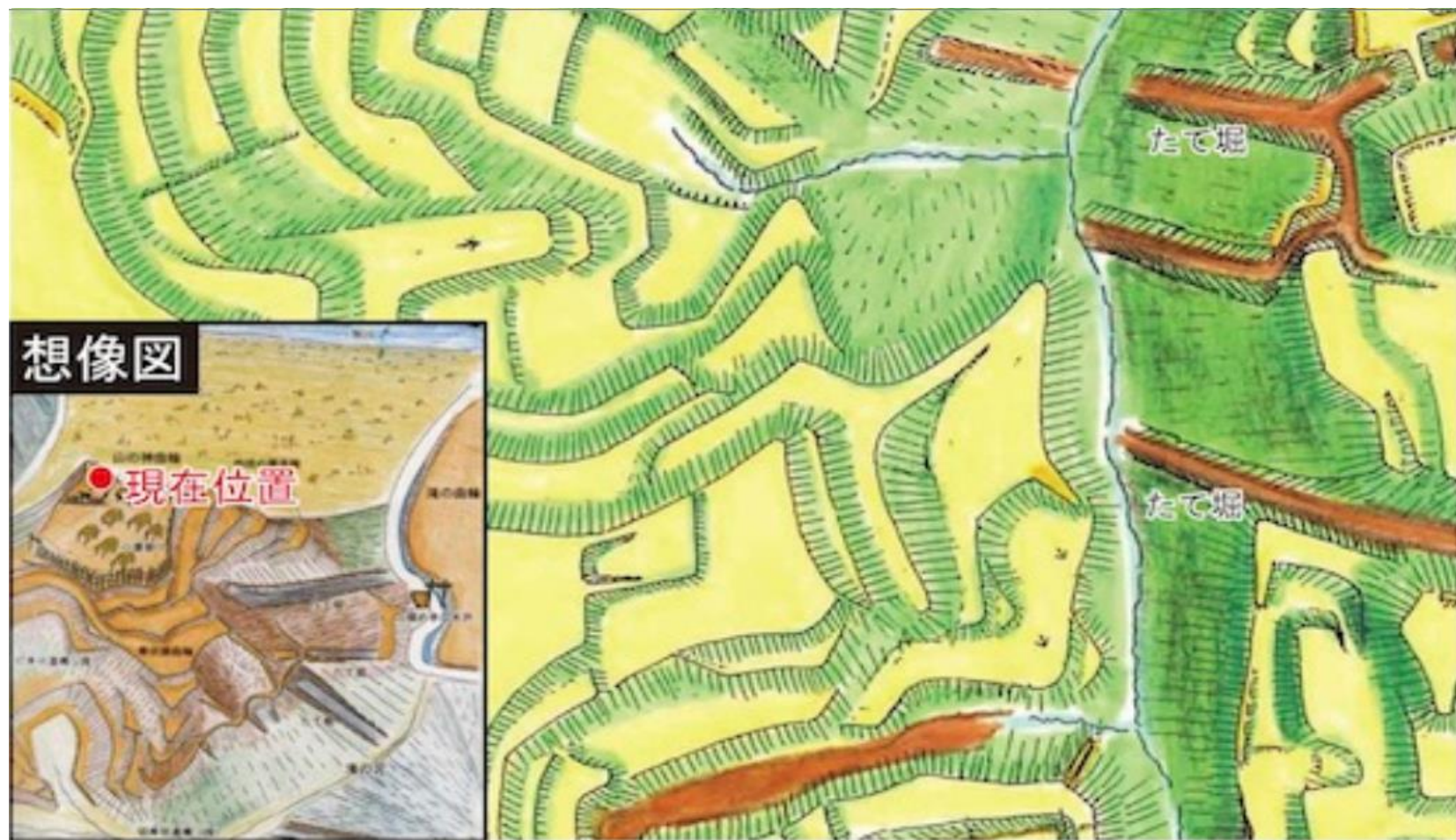
解説

「山の神」とは全国各地に残る民間信仰で、農耕の神である。春は里に下り、秋の収穫を見守ると再び山に戻ってくる。

この山の神を祀る山の神曲輪は、城下や周辺村々の民衆たちを、敵の乱取り(放火や略奪)から守るために設けた避難場所だったと考えられる。

永禄十二年(1569年)、城周辺の村々は武田軍(武田信玄)によって焼き払われた。このとき、一般の民衆は領主の城(滝山城)へ避難していたと思われる。





多摩川が見える



振り返って北側から南方向に見たところ



さて、先程の小宮曲輪跡の櫓台下の堀跡を進んでみよう



左手が小宮曲輪跡



その先で左手の一段深い堀跡に続いている



その一段深い堀底に下りて南方向を見たところ/左手が小宮曲輪跡



その先はこんな感じで左手の小宮曲輪跡を取り巻いている



左手の小宮曲輪跡を見上げたところ



こんな堀底を進む



これは途中にある堀跡を渡る小宮曲輪跡への土橋/前方が小宮曲輪跡



これはその土橋上から更に南方向に堀跡を見たところ



その堀底に下りたところ/左手が小宮曲輪跡/右手は土塁



振り返って土橋を見たところ/右手が小宮曲輪跡



更に堀底を南方向に進んでみよう/左手が小宮曲輪跡/右手は土塁



大規模な堀跡だ



左手の小宮曲輪跡を見上げたところ



左右に折れながら続いている



こんな具合



前方に最初に登ってきた天野坂が見える



さて、天野坂を下って帰路に就くことにする



大変見応えのある城跡であった



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coccan.jp/001tokyo/015takiyama/takiyama.html>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Tokyo/Takiyama/>

<http://yogokun.my.coccan.jp/tokyo/hatioujisi.htm>

http://www.pasonisan.com/rvw_trip/14-04takiyamaiou.html

<http://tkonish2.blog.fc2.com/blog-entry-152.html>

<http://jp-castles.cocolog-nifty.com/blog/2013/05/post-45b3.html>

